

ICTの提供による社会の持続可能性と生物多様性への貢献

TeamDX RFID書籍在庫管理システム

富士通グループのSDGsへの取り組み

2015年に国連で採択された持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals : SDGs）は、世界全体が2030年までに達成すべき共通の目標です。富士通のパーパス「イノベーションによって社会に信頼をもたらし、世界をより持続可能にしていこう」とは、SDGs達成への貢献を社内外に約束するものです。富士通は、長年にわたりテクノロジーを通じて社会に価値を提供してきたグローバル企業として、社会の変革に主体的に貢献する責任があります。世界をより持続可能にするために、社会に対して、より良い、かつスケールの大きなインパクトを与え、自社も持続的に成長していくことを目指しています。富士通は、2023年5月に発表した中期経営計画において、2030年に向けた価値創造の考え方を示しました。必要不可欠な貢献分野（マテリアリティ）の「地球環境問題の解決」「デジタル社会の発展」「人々のウェルビーイングの向上」への取り組みを通じ、SDGsへの貢献を目指します。

<https://www.fujitsu.com/jp/about/csr/sdgs/>

持続可能な開発のための2030アジェンダ

「持続可能な開発目標」（Sustainable Development Goals : SDGs）を中核とする「持続可能な開発のための2030」は、平成27(2015)年9月25日に、ニューヨーク・国連本部で開催された国連サミットで採択されました。

SDGs(Sustainable Development Goals)

2030 年に向けて持続可能な開発に関する地球規模の優先課題などを明らかにした目標です。17の目標と169のターゲットで構成されています。ミレニアム開発目標（Millennium Development Goals : MDGs）とは異なり、先進国を含む全ての国に適用される普遍性が最大の特徴です。

環境との関連

複雑に絡み合う社会・環境課題に対応していくためには、環境・経済・社会の3つの課題を総合的に取り組む必要があります。環境省では、17の目標のうち、気候変動、持続可能な消費と生産（循環型社会形成の取組等）等、少なくとも、12の目標が環境に関連しているとしています。

ICTによるSDGsへの貢献

富士通グループは、クラウドシステム、モバイルコンピューティング、電子政府など、様々なICTの提供を通じて、国内外のお客様とともに、SDGsへ貢献してまいります。



TeamDX RFID書籍在庫管理システム

「RFID書籍在庫管理システム」は、RFIDを活用して市中の書籍の在庫を見える化するソリューションです。当ソリューションは、書店における入荷・棚卸・会計時にRFIDを用いて各書籍の在庫・売上データを瞬時に読取・収集することで売れ筋のタイトル等を抽出・分析し、書籍の需要と供給のギャップを縮小させ、これまで非常に多かった返本部数（書店で売れ残って出版社へ返送することになった書籍の数）を削減することが可能です。これにより、紙資源の節約に貢献します。また、従来は店員が目視で行っていた棚卸等の作業時間を大幅に削減するとともに、在庫管理の精度が向上します。今回、紙資源の節約と作業時間の削減等の要素をCO₂排出量の削減として評価しました。

当ソリューションが貢献可能なSDGsのゴール



働きがいのある人間らしい仕事を実現する。



環境に配慮した技術・産業プロセスの導入拡大により、持続可能性を向上させる。



廃棄物の発生防止、削減、再生利用及び再利用により、廃棄物の発生を大幅に削減する。



ICT導入による生産性向上、業務改善等によりお客様におけるCO₂排出量を削減する。



森林の持続可能な経営の実施を促進し、森林減少を阻止し、劣化した森林を回復させる。

TeamDX RFID書籍在庫管理システムによる業務の効率化と環境負荷の低減

システム概要

「RFID書籍在庫管理システム」は、RFIDを活用して市中の書籍在庫の見える化を実現するソリューションです。現在、出版業界では、書店で売れ残り出版社へ返本される書籍の合計損失額は年間2,000億円にも及ぶと言われており、書籍の需要に対し出版部数が過多となっています。原因の一つとして、書店における各書籍の在庫・売上データを正確に把握できていないことがあります。

当ソリューションを導入することで、書店における入荷・棚卸・会計時にRFIDで各書籍の在庫・売上データを瞬時に読取・収集、「どの本がどれだけ、いつ売れたか」等の情報を抽出・分析し、書籍の需要と供給のギャップを縮小させ、これまで非常に多かった返本部数を削減できます。

これにより、書籍に費やす紙資源の節約につながるとともに、返本のための輸送回数が削減されます。また、従来は店員が目視で行っていた入荷対応や棚卸等の作業時間を大幅に削減するだけでなく、在庫管理の精度が向上します。ひいては、紙資源の節約と作業時間の削減等により、CO₂排出量の削減にも貢献します。

効果

・CO₂排出量の削減効果：約57% ※富士通フロンテック試算

・返本される書籍の紙消費量の削減および作業時間の削減 ※導入した10店舗の実績を基に試算

【導入前】返本される書籍の紙消費量（A4換算）：約72百万枚／年

作業時間（入荷・棚卸等）：約4,300時間／年

【導入後】返本される書籍の紙消費量（A4換算）：約29百万枚／年（使用されるRFIDタグの紙消費量も含む）

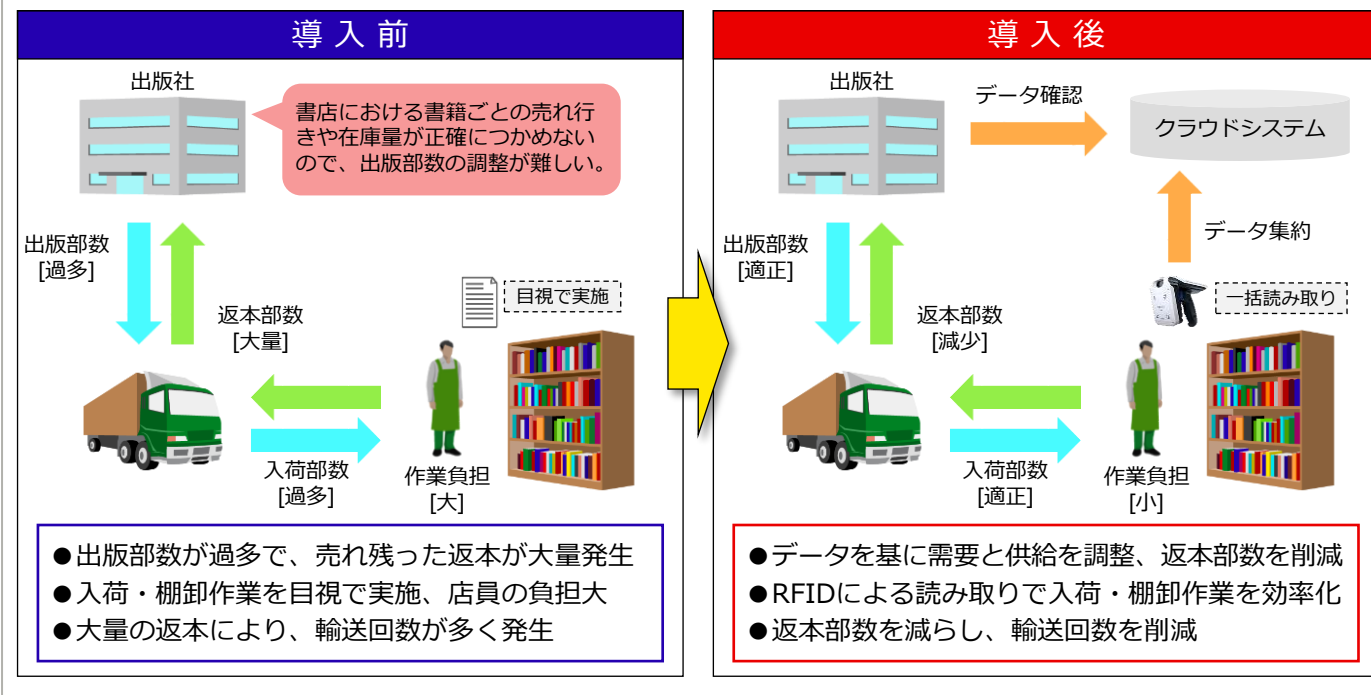
作業時間（同上）：約1,500時間／年

⇒結果、紙消費量：約43百万枚／年の削減、作業時間：約2,800時間／年の削減

※上記の効果は、現時点で富士通フロンテックが試算したものであり、システムの特性により結果が異なることを予めご承知おきください。

TeamDX RFID書籍在庫管理システムの導入によって、何故、環境負荷が低減されるのか？

- ① 書籍の需要と供給のギャップを縮小、返本部数を減らすことで、書籍に費やす紙資源を節約します。
- ② 入荷対応や棚卸等の作業時間が削減されることで、その分のエネルギー使用量が削減されます。
- ③ 返本部数が減ることで輸送回数を削減し、輸送エネルギーの削減につながります。



お問い合わせ先

富士通フロンテック株式会社

フロントソリューション事業本部 CPS事業部

Webによるお問い合わせ： <https://www.fujitsu.com/jp/group/frontech/contact/>